



— 発行者 —
 福島県公立学校退職校長会
 福島支部長 鈴木昭雄

— 編集広報部 —
 第123号 題字
 高橋 藤園

福島ならではの取組について



福島市教育委員会
 教育長 佐藤 秀美

福島県公立学校退職校長会の皆様には、日ごろより福島市の学校教育に深いご理解とご支援をいただいていることに、心から感謝申し上げます。

現在本市では、令和三〜七年度までを期間とした「福島市教育振興基本計画」に基づき、基本目標「ふるさとへの誇り 夢とあこがれ 心(ひとみ)かがやく ふくしまっ子」を具現化するため、三つの基本方針「①夢と志を持ち、可能性に挑戦するふくしまっ子の育成」「②ふくしまっ子の健やかな成長と学びを支える環境の整備」「③人・つながり・地域を共に創る生涯学習の推進」を掲げ、各種施策を推進しています。このうち、学校教育に関連の深い基本方針①及び②について、本市ならではの取組を中心に紹介します。

◆基本方針①

子どもたちの豊かな心・確かな学力・健やかな体の育成を目

指し、各学校では、各種調査結果等を踏まえ、改善・充実に取り組んでいます。教育委員会としても学校訪問はもとより、幼保小中連携事業や学習指導員の配置など、様々な点から指導・支援に当たっています。また、特別支援教育の充実、一人一台整備したタブレット端末の積極的な活用にも力を入れています。

一方、全国的に大きな課題となっているいじめと不登校については、まずいじめについては、先般、いじめ防止に係る条例改正や基本方針の改訂を行い、「いじめは、どこでもどの児童等においても起こり得る」との従来の基本認識を、「いじめは現に起きている」というレベルにまで危機意識を上げ、いじめ問題に迅速かつ機動的に対応できるよう改善を図りました。また、不登校への対応についても、子どもたちが安心して教育を受けられる魅力ある学校づくりを基盤としながら、生徒支援教員や相談員の

配置、校内不登校支援教室の設置、適応指導教室での支援、オンラインを活用した学びの保障等により、個に応じた支援に力を入れています。

◆基本方針②

学校を取り巻く状況の複雑化・多様化、若手教員の増加等を背景に、教員の資質や指導力の向上は一層重要になっています。中核市として総合教育センターを有する本市の強みを生かし、学校や教職員個々のニーズに応じた研修を実施しています。

読書環境については、本年二月に導入した電子図書館を七月からは子どもたちがタブレットを用いて活用できるようにしたことにより、閲覧数が飛躍的に伸びています。また、学校図書館の電算化により、来年二月からはバーコードによる貸し借りが可能になるだけでなく、タブレットで市立図書館等の蔵書を調べたり自分の読書履歴を確認したりすることができるようになるなど、より一層充実します。

学校給食についても、地元食材を積極的に使用し、安全安心な給食を提供するとともに、物価高騰を踏まえ、本年五月からは給食費の補助額をこれまでの一食あたり百円から百三十円に拡充し、給食費の約四割に当たる

負担軽減を図っています。

学校の働き方改革も喫緊の課題です。教育の質の向上には、教員が心身共に健康でやりがいを実感しながら日々の教育活動を行うことができる環境整備が重要です。このため、校務支援システムの導入に加え、今年度から朝の欠席連絡を専用アプリで行うこととしました。さらに二学期からは、家庭への配付文書を電子配信としたほか、留守番電話の導入にも着手し、今後全ての学校で運用する予定です。また、週末部活動の地域移行も段階的に進めているところです。

老朽化している学校施設についても、更新及び長寿命化改修を計画的に実施するほか、小・中学校の適正規模・適正配置を進め、令和七年四月には松川地区に本市初となる義務教育学校が開校します。

また、様々な事情で義務教育を修了できなかった方や中学校で十分学ぶことができなかった方、義務教育を修了していない外国籍の方を対象とする新たな学びの場として、来年四月には本県初となる公立夜間中学を総合教育センター内に開校します。

以上、取組の一端を紹介しましたが、退職校長会の皆様には、今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新時代の魅力ある学校づくりへ

福島地区中学校長会

会長 熊谷幸司
(福島市立大島中学校長)

今年の夏は大変な暑さでした
が、ようやく秋の訪れを感じる
季節となりました。中学校で
は、文化祭が行われる芸術の
秋、研究発表会等の学習の秋を
迎え、各校で魅力ある学校づく
りに取り組んでいるところで
す。

さて、今年六月に閣議決定さ
れた第四期教育振興基本計画に
は、二つのコンセプトが盛り込
まれました。一つ目は、「持続
可能な社会の作り手の育成」で
す。受け身ではなく、主体性や
リーダーシップ、創造力等を身
に付け、自ら持続可能な社会を
切り拓く人材を育成するという
ことであり、学習指導要領の理
念を全体のコンセプトに掲げた
と言えます。二つ目は「ウェル
ビーイングの向上」です。ウェ
ルビーイングは、身体的、精神
的、社会的に良い状態にあるこ
とであり、生きがいや人生の意
義など将来にわたる持続的な幸
福を含む概念と定義されていま
す。日本人は、自己肯定感や自
己表現といった「獲得的要素」
は低いと言われますが、人との

つながりや利他性、社会的貢献
といった「協調的要素」は決し
て低くありません。この両者を
一体的に育むことが、今後一層
求められることとなります。子
どもたちのウェルビーイングを
高めるためにも、教員のウェル
ビーイングを確保することが必
要です。特別なことをするので
はなく、これまで行ってきた学
校教育活動全体を通して向上を
図ることが求められていると受
け止めています。

こうした方向性が示される度
に言われるのが「校長のリー
ダーシップ」です。令和の時代
となり、新時代のリーダーの在
り方が問われています。令和の
変革の時代に求められるリー
ダーとは、強い力で組織を統率
したり変革したりするリーダー
というよりは、目指す学校像に
向け、必要な人材や組織を適切
にマネジメントできるタイプの
リーダーなのだろうと感じてい
ます。守るべきところは不易と
して堅守しながらも、変えるべ
きところは流行として迷わず変
革する「しなやかさとたくまし

さ」が、必要とされています。
教育振興基本計画を読みなが
ら学校現場を見つめると、不登
校や、いじめ、SNSトラブル
等の生徒指導上の諸問題、L G
B T Q等の人権問題、特別な配
慮を要する生徒への合理的配
慮、教員不足、若手教員の育成、
不祥事の根絶、働き方改革、さ
らには部活動の地域移行など課
題は山積みであり、悩みは尽き
ません。私たち校長は、課題の
一つ一つと向き合い、解決に向
け職員とともに取り組んでいる
ところです。時には、地区校長
会における情報交換から他校の
取組に学び、自校の実態に照ら
し合わせて最終判断をしていま
す。コロナ禍で学んだことの
一つは「あらゆる情報を集め共有
すること、そして一歩ずつ前進
することが重要である」という
ことでした。私たち校長が見る
べきものは、目の前の生徒たち
と教職員、生徒たちの未来と学
校の未来の姿です。自ら未来を
拓き、明るい未来社会を作って
いく生徒たちに確かな力をつけ
ることができる魅力的な学校づく
りに今後とも邁進しなければな
らないと強く感じています。

今後とも、退職校長会の皆様
からご助言等をいただけますよ
う、お願い申し上げます。

喜寿を迎えて

「喜寿の思い」

吾妻A 青木崇郎



退職時には遙かな目標であつ
た喜寿という大きな節目に、な
んとか到達するに際しまして、
これまでご指導頂き、またお世
話になった皆様に心より感謝い
たします。今は元気にパークゴ
ルフや太極拳などに興じておる
次第です。

人の方々の心をも励ますよう
な、立派なものが沢山ありまし
た。

退職後は青少年育成県民会議
にお声をかけて頂き、学校教育
を側面から支える大事な仕事
に、仲間とともに励んでおりま
した。三年目が終わる頃、東日
本大震災が起きた時は「少年の
主張大会」の準備を進めており
ました。あの混乱の中、開催も
危ぶまれたのですが、各校の関
係者の皆様の熱意の下に無事県
大会が開かれ、そしてまた県代
表の中学三年男子が、全国大会
の最優秀賞を得るといふ快挙を
遂げることができました。

しかし中には、その後が案じ
られるような例もあったことを
思い出します。発表者の直接の
体験ではなく、友達の例です
が、小学生時に帰還困難区域内
から避難をして、中三で初めて
一時帰宅した女子生徒が、草
茫々と荒れ果てた我が家を間近
に見て怖くなり、車から降りら
れずに、とうとう家に入れぬま
ま戻ったということでした。

この生徒はその後どのように
「故郷」と向き合って生きて来
ているでしょうか。

震災による心身への影響を回
復する道を考えてと、真の復興
とは大変なことだと思いま
す。思いを堂々と主張するよう
な若者たちが、これから成し遂
げてくれると期待しておりま
す。

その他の生徒たちの発表に
も、当時震災の苦境にあった大



「今を大事に 楽しんで生きる」

清水 A 小川 信子

「えー七十五才になったばかりなのにいきなり喜寿とは。いつべんに二才も年をとるなんて」とショック！立派な高齢者！

山あり谷ありの七十五年だつたからこそ人の情が身に沁みて、生きている喜び・有難さを知り、今を大事に充実した日々にしていこうと決めました。一日二十四時間すべて自由に自分のために使える幸せ。何と贅沢なことか。

一日はラジオと共にスタート、朝目覚めるとすぐスイッチ・オン。朝夕の台所仕事も聴きながら、夜は「ラジオ深夜便」をお休みタイマーです。

また、好きなことで自分を充電。大好きな美術館巡りは、やつと再開。東京へも思いたつたらすぐ日帰りで気軽に出かけます。油絵の重さにちよつと疲れて、日本画の線と色の美しさに魅せられています。

音楽は弾くことも聴くことも好きです。「禁じられた遊び」が弾きたくて始めたギターですが、上達しません。指を使うの

数ページで眠くなり、はかどりません。前はもつと速く読めたのに：目の衰えかな？悲しい！勧められて俳句を始め、季節に敏感になりました。自分の句を読むと、その時の情景や気持ちが甦って嬉しいです。

咲き初めしピンクの山茶花
初初し 信子
これからも頭・体・心の健康を大切にしていきたいと思います。



「ふるさとを出て 心たがわず」

京都市 國分 敏昭

京都の暮らしももう六年になります。福島に家を構え、長年生きてきた者が京都で喜寿を迎えるなどとは想像すらできないことでした。退職してからも十七年ですからよくぞこれまでと感慨は一人です。

京都に住んで最初に触れ合った京都人といえばやはりご近所です。西隣の床屋さんと真向かいの食堂のご夫妻からはよくし

ていただいています。また、私は若松で生まれ育ちましたから京都にきたならすぐにもという思いで会津藩士三百



「喜寿を迎えて」

吾妻 A 佐久間 博美

主に小さな菜園作りと近所の人達と健康マージャン、そして子どもの安全見守りを行っています。

健康マージャンは賭けない、吸わない、飲まないです。マージャンの事で、仲間とのコミュニケーションにも役立つています。

子どもの安全の見守りは福島地区防犯指導隊の八島田分隊の一員として活動しています。分隊の主な活動は地域の安全活動効果的に行い、事件・事故及び災害等のない明るい地域

散歩し、歌を詠むことに楽しみを見つけました。この間、すぐ南側の上御霊神社の宮司様とも懇意になり、お力添えもあつて一年間歌い続けた短歌三百十首を「歎峰」と名うって一冊の歌集にいたしました。記念となる宝です。今は元の家に戻り美しい比叡山はまるで磐梯山を仰ぎ見ているように重なります。

いつまでも健康で眺め続けたいものです。

社会づくりを推進するため活動することにあります。分隊の人数は十名で男性八名、女性二名で組織されています。

主に小学生、中学生の下校時と夕方に青色燈をつけて車二台に分乗し、野田小学校学区内を巡回して下校時の安全確保に努めています。具体的には、東西の二つの方向に分かれて指導に当たります。東方面は市街化区域の為住宅が増えてきており、子どもの数も多く列をなして下校してきます。それに対して西側は市街化調整区域になっており農家が点在し梨畑になって

います。そのため人通りの少ない道を下校することになるので不審者に遭わないように見回っています。その他に警察の方と一緒に大型商業施設に行き、防犯・防災の啓発活動を行います。

その際、店の責任者に会い万引の状況や困っている事などについて聞いてきます。

喜寿を迎えてもこのような活動に参加させていただいていることに感謝し、健康で体の続く限り続けていきたいと思っております。

ふれあい広場

— 方部会員紹介 —

サポートティーチャー

渡利B 渋谷 朗

『ワー！ すごい！』

眼を輝かして手に持ったフラスコの口を見つめる女の子。「空気の温度と体積」の実験で、手のひらの温かさでシャボン玉の膜が浮き上がってきたのです。

数年前から、県のサポートティーチャーとして学校のお手伝いをしています。この事業は、小・中学校や市町村教育委員会が行う土曜学習等に、大学生や退職教職員等が支援を行うものです。学習・読書・理科に分かれています。冒頭の話は理科のサポートティーチャーとして実験のお手伝いをしていた時、私の眼に焼き付いている女の子の姿です。

子どもたちは、私が理科に当然くわしいと思っっています。理科の授業は数十年ぶりで、県の資料・研修会や教科書を使ってよく勉強し直しました。本当に楽しいひと時でした。理科の授業は、子どもたちにとっても楽しい時間だと思えます。その分、先生方の教材研究や準備は

大変です。そんな中で少しでもお役に立てればと、実験の器具や薬品をそろえたり、後始末や理科室の物品の整理・掃除をしたりとできる限り頑張りました。

『先生に、いいよってほめられてうれしかった』

これは、最終日に子どものお礼の言葉の一言です。それは、「てこのはたらき」の単元のモビール作成の時のことです。感覚的に独創的であると思い、おおいに褒めました。彼が、それほど喜ぶとは思っていませんでしたが、子どもの思い・発想は無敵だと改めて思いました。

今、教育界では、働き方改革や部活の地域移行などの流れが進んでいます。子どもからの視線「子どもの学び」を忘れないでほしいと思います。みんな学びたがっています。ぜひ、そのことを中心に折り合いをつけてほしいと願っています。

また、子どもたちが自由にタブレットを使っている姿に驚いています。コロナ禍の中で急速に導入が進み、調べ学習やドリル学習、プログラム学習や家庭

学習にと様々なところで活用されています。そんな流れでも、読書・紙文化も大切だなど思ったり、理科の観察プリントの手書き葉っぱを見て、写真もいいが、これも重要と考えたりしています。

クラスでは控えめな子も、そばに寄り添い話をしてみると、自分なりに必死で考えているのです。手を挙げて発表できなくても、小さい声でも答えてくれることはしっかりと学習のねらいを抑えています。一言声をかけてやることで少しでも自信になればと思っています。

土曜学習には希望する三年から六年の子どもたちが通っています。国語・算数・宿題などを一緒に勉強しています。できたドリルを持って次々と並びます。子どもたちはそれぞれがみんな頑張っています。一人一人を見ていくと、子どもたちが分りにくいところは私が教えるべく、いとこでもあります。私も次の回までに指導法の工夫を考えていくよう努力しています。少し立ち位置をかえると、日々の先生方のご努力や子どもたちの頑張り・良さが見えてきます。私も負けないように、もう少しお手伝いを続けてみようと思っています。

本年度喜寿祝い会員の皆様

(昭和二十二年生まれ)

- | | | | |
|---------|--------|---------|-------|
| 南沢又A | 佐藤正雄様 | 東部A | 松田貞夫様 |
| 笹谷大橋勝彌様 | 杉妻星本文様 | 東部B | 清野要様 |
| 吾妻A | 佐久間博美様 | 南沢又B | 梅津和男様 |
| 西部B | 小山一五様 | 岡山菱沼一良様 | |
| 中部 | 持地隆一様 | 川山齋藤悦子様 | |
| 松川 | 鈴木邦昭様 | 東部B | 今野滋子様 |
| 特別区 | 國分敏昭様 | 清水A | 小川信子様 |
| 東部B | 古関隆史様 | 渡利C | 大崎孝一様 |
| 吾妻A | 青木崇郎様 | | |
| 南沢又B | 梅津文子様 | | |

要望活動を行いました

鈴木支部長・持地事務局局長が十月三日に川俣町教育委員会、十月十二日には福島市教育委員会を訪問し、九月八日の福島支部第二回理事会で協議された要望内容を説明するとともに懇談を行いました。

○川俣町教育長

川俣小の体育館、プールや「かわまた認定こども園」の施設が遅れずに令和五年度から使用、開園できたことは予算上からも良かった。旧小学校の図書の譲渡や備品の公売は町民からも好評だった。

○福島市教育長

学校行事も従前に戻りつつあり、喜んでいいる。(市鼓笛パレードの市中行進、市合唱祭など)
学校の教員不足については退職者の再任用など努めているが産休・育休もあり、補充が追いつかない。

編集後記

本号で、京都市にお住いの国分先生から原稿をお寄せいただき、懐かしく拝読いたしました。遠く離れていても会員の皆様と支部報で繋がっていることに感謝いたします。